

12.18「子ども・子育て新システム」に反対するクリスマスアピール どの子ども大切ないのち わたしたちのたからもの

元気に育ってほしい
幸せになってほしい
それは、わたしたちの心からのねがい

どの子ども大切ないのち わたしたちのたからもの
どの子ども安全に 安心してくらすことのできる
そんな、子どもの笑顔あふれる社会をきずいていきたい

おとなと子どもがともに生きていける
誰もが安心して子育てできる
あたりまえだけど かんたんには手にいれられないもの
だから、手をつなごう いっしょに歩こう ねがいはかなう

いま、政府は、2013年度からの導入をめざし、新たな保育制度案＝「子ども・子育て新システム」（以下、新システム）を急ピッチで進めようとしています。すべての子どもを社会全体で支える仕組みである、保育所に入れない子ども（待機児童）をなくすためだとさかんに宣伝されています。

新システムが待機児童をなくし、子どもを幸せにしてくれるのでしょうか。残念ながら、とてもそうは思えません。それはこの仕組みが、子どものためにより良い環境を整えようとか、どうしたら子どもの置かれている状態を改善していけるのかという発想からではなく、どうやって保育・子育てを「産業化」するのかということを目的につくられているからです。産業化するとは、保育・子育てをお金で売ったり買ったりするということです。子どもへの働きかけをたんなる「行為」として金銭ではかり、その代償を求めるようにする仕組みなのです。

そもそも、子どもが、愛され健やかに育てられることは、何よりも、子どもたち自身の権利です。そして、子どもを育てることは、未来を育む社会的な営みでもあります。児童福祉法は、子どもの育成の責任が、保護者だけでなく、国と自治体にあることを明確にしています。こんなあたり前のことを忘れて、新システムは保育・子育てを「子どもの権利」ではなく、「商売」に変えてしまうのです。お金もうけのために「保育・子育て」が行われる。こんなことが許されていいはずはありません。

今日、ここにあつまったわたしたちの願いは、ただひとつ。すべての子どもたちが愛され、すこやかに育てられ、幸せになること。「子ども・子育て新システム」には、絶対に反対です。新システムによる新保育制度案の撤回・中止を求めて、あらゆる努力をすることを誓います。

2010年12月18日

12.18「子ども・子育て新システム」に反対するクリスマスアピール 参加者一同